

大きな国と、それよりは少し小さな国とが、となり合っていました。そのころ、二つの国の間には何事も起こらず、平和でした。

ここは都から遠い、国境*です。そこには両方の国から、ただ一人ずつの兵隊が送られてきて、①国境を定めた石碑**を守っていました。大きな国の兵士は老人でした。そして、小さな国の兵士は青年でした。二人は、石碑の立っている右と左で見張りをしていました。とてもさびしい山でした。そのあたりを旅する人の姿も、めったに見られませんでした。

初め、おたがいの顔をまだよく知らない間は、二人は敵か味方かというような感じがして、ほとんど話もしませんでした。けれども、②いつしか二人は仲よしになってしまいました。二人には、ほかに話をする相手もなく、退屈だったからです。そして、春の日が長く、うららかに頭の上を照らしていたからでもありました。

ことば

* 国境：国と国との境目。

** 石碑：文字などをきざんで立てた石。ここでは国の境目を示すもの。

ちようど国境のところには、だれが植えたというこ
ともなく、一株の野ばらがしげっていました。その花
には、朝早くからみつばちが飛んできて集まっていま
した。心地よい羽音が、まだ二人が眠っているうちか
ら、夢を見ているような気分の中で耳に聞こえてきま
した。

「③どれ、もう起きようか。あんなにみつばちが来て
いる。」と、二人は申し合わせたように起きました。
そして外へ出ると、やはり太陽は木のこずえの上に、
元氣よくかがやいていました。

二人は、岩の間からわき出るきれいな水で口をすす
ぎ、顔を洗いにいくと、そこで顔を合わせました。

「やあ、おはよう。いい天気でございますな。」

「ほんとうにいい天気です。天気がいいと、気持ち
せいせいします。」

二人は、そこでこんな立ち話をしました。おたがい
に頭を上げて、あたりの景色をながめました。毎日見
ている景色でも、見るたびに新しい感じを心にあたえ
るものです。

と
いいち
問一

①の仕事をするために、二つの国から来ていた兵士について、正しいものを一つ選びましょう。

ア 大きな国から青年、小さな国から老人が来ていた。

イ 大きな国から老人、小さな国から青年が来ていた。

ウ 二つの国から、老人が一人ずつ来ていた。

エ 二つの国から、青年が一人ずつ来ていた。

こたえ

と
いいに
問二

②とあります。二人が仲よくなつたのはなぜですか。

本文に書かれている理由を一つ書きましょう。

と
いさん
問三

③で、二人は起きる前から、みつばちが来ていることに気づいています。何が聞こえたからですか。本文から、当てはまる言葉を抜き出しましょう。

青年は、初めは将棋の駒の動かし方を知りませんでした。けれども老人に教わってから、このごろは、のどかな昼ごろになると、二人は毎日向かい合って将棋を指していました。

初めのうちは老人の方がずっと強く、①駒を落とす*指していましたが、老人が負けることがありました。

青年も老人も、とてもよい人たちでした。二人とも正直で、親切でした。二人は一生けんめいに将棋盤の上で争っても、心は打ちとけていました。

「やあ、これはおれの負けかな。こう逃げ続けては、苦しくてかなわない。ほんとうの戦争だったら、どうなるか分らん。」

老人はそう言って、大きな口を開けて笑いました。青年は、勝てそうなのでうれしそうな顔をして、一生けんめいに目をかがやかせながら、相手の王様を追っていました。

小鳥はこずえの上で、おもしろそうに歌っていました。白いばらの花からは、よい香りがしてきました。

ことば * 駒を落として：強い方が自分の駒をいくつか減らして、相手と勝負すること。

その国にも、冬はやってきました。寒くなると、

② 老人は南の方を恋しく思いました。

その方には、息子や孫が住んでいました。

「早く、暇をもらって**帰りたいものだ。」

老人は言いました。

「あなたがお帰りになれば、知らない人が代わりに来るでしょう。やはり親切でやさしい人ならいいけれど、敵、味方というような考えを持った人だと困ります。

③ どうか、もうしばらくいてください。そのうち

には、春が来ます。」

青年は言いました。

ことば ** 暇をもらって：ここでは、仕事を離れて帰る許しをもらって。

と
いいち
問一

―①のころから、青年の将棋のうではどのように変わりましたか。一つ選びましょう。

ア 老人に教わっても、駒の動かし方が分からないままだった。

イ 老人が駒を減らさないと、青年は必ず負けるようになった。

ウ 青年が自分の駒を減らしても、必ず勝つようになった。

エ 老人が駒を減らさなくても、青年が勝つことがあるほど上達した。

こたえ

と
い
問二

―②で、老人が恋しく思った南の方には、だれが住んでいましたか。二つ書きましょう。

と
い
問三

―③と青年が言ったのはなぜですか。老人の代わりになる人について、青年が心配していたことを書きましょう。

やがて冬^{ふゆ}が去^さって、また春^{はる}になりました。ちょうど
そのころ、二つ^{ふた}の国^{くに}は、おたがいの利益^{りえき}*に関^かわる何^{なに}
かの問題^{もんだい}から、戦争^{せんそう}を始^{はじ}めました。

すると、これまで毎日^{まいにち}、仲^{なか}よく暮^くらしていた二人^{ふたり}

は、①敵^{てき}、味方^{みかた}の間柄^{あいだがら}になったのです。それが、なん
とも不思議^{ふしぎ}なことに思^{おも}われました。

「さあ、おまえさんと私^{わたし}は、今日^{きょう}から敵^{てき}どうしになっ
たのだ。私はこんな年^{とし}を取^とっていても、少佐^{しょうさ}**だ
から、私^{わたし}の首^{くび}を持^もっていけば、あなたは出^{しゅつ}世^せがで
き。だから殺^{ころ}してください。」

老人^{ろうじん}は言^いいました。

これを聞^きくと、青年^{せいねん}はあきれた顔^{かお}をして言^いいまし
た。

「何を言^いわれますか。どうして私^{わたし}とあなたとが敵^{てき}どう
しでしょう。私^{わたし}の敵^{てき}は、ほかにいなければなりませ
ん。戦争^{せんそう}はずっと北^{きた}の方^{ほう}で行^{おこな}われています。②私^{わたし}は、

そこへいつて戦^{たたか}います。」
青年^{せいねん}は、そう言^いい残^{のこ}して去^さってしまいました。

ことば * 利益^{りえき}：自分^{じぶん}たちにとって得^{とく}になること。

** 少佐^{しょうさ}：軍隊^{ぐんたい}での階級^{かいきゅう}の一つ。老人^{ろうじん}は、自分^{じぶん}を討^うてば青年^{せいねん}の手柄^{てがら}になると言^いっている。

国境には、ただ一人、老人だけが残されました。

青年がいなくなった日から、老人は、ぼうぜんと**
*日を送りました。

野ばらの花が咲き、みつばちは日が上がると、暮れ
るころまで群がっています。

戦争はずっと遠くで行われているので、耳をすまし
ても鉄砲の音は聞こえず、空をながめても黒い煙のか
げさえ見えませんでした。

③老人は、その日から青年の身の上を案じていまし
た。日は、こうして過ぎていきました。

ことば *** ぼうぜんと：おどろきや悲しみなどで、ぼんやりしている様子。

と
いいち
問一

―①のようになったのは、何が起きたからですか。一つ選び
ましょう。

ア 二つの国が、戦争を始めたから。

イ 二人が、国境の場所についてけんかしたから。

ウ 老人が、青年との約束を破ったから。

エ 青年が、老人の国へ移ることにしたから。

こたえ

と
いいに
問二

―②と言った青年は、老人を
自分の敵だとは考えていませ
ん。青年の言葉と、その後の
行動に合うように、続きを書
きましょう。

青年は、老人に「どうして私とあな
たとが敵どうでしょう」と言い、

と
いさん
問三

―③の老人の気持ちとして、最も合うものを一つ選びましょ
う。

ア 青年がどれだけ出世できるか、楽しみにしていた。

イ 自分の国が勝てば、青年も必ず帰れると安心してた。

ウ 戦いに出かけた青年が、無事でいるか心配していた。

エ 青年が先に国へ帰ったので、うらやましく思っていた。

こたえ

ある日、そこを旅人が通りました。老人は、戦争が
どうなったかをたずねました。

すると旅人は、①小さな国が負け、その国の兵士は
みなごろしになって、戦争は終わったと伝えました。

②老人は、それなら青年も死んだのではないかと思
いました。

そんなことを気にながら、石碑の土台に腰をか
け、うつむいてみると、いつの間にか、うとうとと
居眠りをしました。

向こうから、大勢の人が来る気配がしました。見る
と、一列の軍隊でした。そして、馬に乗ってその軍隊
を指揮して*いるのは、あの青年でした。

その軍隊はとても静かで、声一つ立てません。やが
て老人の前を通るとき、青年は黙礼**をして、ばら
の花の香りをかいだのでした。

老人が何か言おうとすると、目が覚めました。

③それは、まったく夢だったのです。

それから一か月ほどたつと、野ばらが枯れてしま
いました。その年の秋、老人は許しをもらって、南の方
へ帰りました。

ことば * 指揮して：人々がどう動くか、指図して。

** 黙礼：言葉を言わずに、おじぎをすること。

と
いいち
問一

―①は、老人がどのようにして知ったことですか。一つ選びましょう。

ア 戦場まで出かけて、自分の目で見た。

イ 帰ってきた青年から、直接聞いた。

ウ 国境にいた兵士たちから、手紙を受け取った。

エ そこを通った旅人にたずねて、話を聞いた。

こたえ

と
いいに
問二

青年は、小さな国の兵士です。―②で、老人が青年も死んだのではないかと思ったのはなぜですか。旅人の話をもとに書きましょう。

と
いさん
問三

―③とあります。老人が夢の中で見た出来事はどれですか。一つ選びましょう。

ア 旅人が、小さな国が負けたと伝えたこと。

イ 青年が軍隊を指揮し、老人におじぎをしたこと。

ウ 野ばらが、一か月ほどして枯れたこと。

エ 老人が、秋に南の方へ帰ったこと。

こたえ

問3

正解：心地よい羽音

本文のどこを見るか

傍線③の前の「心地よい羽音が…耳に聞こえてきました」。

考え方

みつばちが羽を動かす音が聞こえたので、二人は起きる前から、みつばちが来ていると気づいています。

採点ポイント

「羽音」も正答です。聞こえたものが答えられているかを確認します。「みつばち」は音を出す生き物です。「声」は本文の表現と違います。

問2

解答例：ほかに話をする相手がなく、退屈だったから。

本文のどこを見るか

傍線②の後の、二つの理由を説明している文。

考え方

本文には、話し相手がいないことと、うららかな春の日であることが理由として書かれています。そのうち一つを答えます。

採点ポイント

「ほかに話し相手がいなかったから」で正答。「退屈だった」まで必須にはしません。「春の日が長く、うららかに照らしていたから」も正答です。二つ書いても内容を認めます。「同じ国の人だから」は本文と違います。

問1

正解：イ

本文のどこを見るか

「大きな国の兵士は老人」「小さな国の兵士は青年」。

考え方

国の大きさと、そこから来た人物を組み合わせます。

誤答の理由

ア：国と人物の組み合わせが逆です。ウ：二人とも老人ではありません。エ：二人とも青年ではありません。

問3

解答例：代わりに来る人が、敵と味方に分けて考える人かもしれないと心配したから。

本文のどこを見るか

傍線③の直前の、代わりに来る人についての青年の言葉。

考え方

青年は、次の人とも今の老人のように親しく過ごせるとは限らない、と心配しています。

採点ポイント

「自分を敵として見る人かもしれない」「今の老人のように親切でやさしい人ではないかもしれない」も正答です。「老人が好きだから」だけでは、問われた心配の内容が不足します。

問2

正解：息子／孫

本文のどこを見るか

傍線②の後の「その方には、息子や孫が住んでいました」。

考え方

「その方」は南の方です。老人が家族のいる場所を恋しく思っていることにつながります。

採点ポイント

順不同。二つとも書ければ正答です。「家族」だけなら、だれのことか具体的に確かめます。片方だけなら、もう一人も本文から探させます。

問1

正解：エ

本文のどこを見るか

傍線①と、その次の「駒を落とさずに指しても、老人が負けることがありました」。

考え方

初めは老人が駒を減らしていましたが、後には同じ条件でも青年が勝つことがありました。

誤答の理由

ア：青年は駒の動かし方を教わりました。イ：上達した流れと逆です。ウ：青年が駒を減らしたとは書かれておらず、必ず勝つわけでもありません。

問3

正解：ウ

本文のどこを見るか

青年が戦いに向かったことと、傍線③。

考え方

「身の上を案じる」は、その人がどうなっているか心配することです。

誤答の理由

ア：出世を楽しみにしているのではありません。イ：安心しているのではありません。エ：青年が国へ帰ったとは書かれていません。

問2

解答例：戦争が行われている北の方へ、戦いにいきました。

本文のどこを見るか

「戦争はずっと北の方で行われています」から、青年が去るまで。

考え方

老人を敵とは思わなかった青年ですが、戦争には参加しようとしています。会話の「そこ」が指す場所を確かめます。

採点ポイント

必要な内容は、戦争が行われている場所へ、戦うために向かったこと。「戦場へ戦いにいった」も可。
「老人を殺さずに」を加えてもよいですが必須ではありません。「家へ帰った」「戦争をやめた」は本文と違います。

問1

正解：ア

本文のどこを見るか

冒頭の、二つの国が戦争を始めたという文。

考え方

二人が仲たがいをしたのではなく、国同士の関係が変わったためです。

誤答の理由

イ：国境についてけんかしたとはありません。ウ：老人の約束破りはありません。エ：青年が国を移ったとは書かれていません。

問3

正解：イ

本文のどこを見るか

「居眠りをしました」から「目が覚めました」まで。

考え方

眠りに入ってから目覚めるまでの場面が、夢の中の出来事です。

誤答の理由

ア：眠る前に聞いた話です。ウ：目覚めて一か月ほど後の出来事です。エ：その年の秋の出来事です。

問2

解答例：旅人から、小さな国が負け、その国の兵士はみんな殺されたと聞いたから。

本文のどこを見るか

傍線①と、設問にある「青年は、小さな国の兵士です」。

考え方

その国の兵士がみんな殺されたという話を聞き、青年もそうなのではないかと考えました。青年の死を直接確認したわけではありません。

採点ポイント

「その国の兵士がみんな殺されたと聞いたから」が中心。「国が負けたから」だけでは、青年の死を心配した直接の理由が不足します。「青年が死んだと旅人に教わった」は旅人の言葉を変えています。

問1

正解：エ

本文のどこを見るか

旅人が通りかかり、老人が戦争についてたずねた場面。

考え方

老人が自分で確かめたことではなく、旅人から聞いた話です。

誤答の理由

ア：戦場へ出かけてはいません。イ：青年から報告を受けてはいません。ウ：手紙は出てきません。

使い方・出典・教材制作

野ばら／小学3・4年生向け

印刷と使い方

全16ページ。児童用は1～11ページ、解答・解説は12～15ページ、出典・使い方は16ページです。A4横向き・片面・実際のサイズ（100%）で印刷します。各回の本文を読む順に上へ並べ、問題をその下に置きます。

問題と採点

各回3問、記述は1問です。全体で選択6問・抜き出し1問・短答1問・記述4問。その回の本文を見ながら解けます。記述の字数制限はありません。短くても必要な内容があれば正答です。表現が解答例と違っても、採点ポイントを満たせば認めます。第1回の問2は、本文に書かれた理由を一つ答えます。

本文の扱い

ご提供の青空文庫本文をもとに、現代表記・一部語句・文の組み立て・段落を小学生向けに整え、ふりがなと注釈を加えました。「将棋の歩み方」を「将棋の駒の動かし方」、「石碑の礎」を「石碑の土台」などに改めています。会話と情景を残して全4回に分けました。原文そのままの掲載ではありません。傍線・設問は教材用です。

読み取りのポイント

二人の交流と変化、青年の言葉と行動、老人の心配を本文から読み取ります。旅人の話、老人の考え、夢の中の出来事を区別します。青年の死が直接確認されたとは扱わず、野ばらが枯れた意味や作者の教訓を一つの正解として求めません。

作者・作品

作品：『野ばら』

作者：小川未明

※底本の表題は「野のばら」です。

出典情報

底本：『定本小川未明童話全集 2』講談社

1976（昭和51）年12月10日第1刷

1982（昭和57）年9月10日第7刷

入力：ぶろぼの青空工作員チーム入力班

校正：匿名

2012年5月22日作成

2012年9月28日修正

出典の確認先

青空文庫

<https://www.aozora.gr.jp/>

本文と書誌・入力校正情報は、ご提供の青空文庫作成ファイルに基づきます。入力・校正・制作は、ボランティアの皆さんによるものです。

教材制作

家スタ！／学習舎シオン

新しい教材のご案内

新しいおはなし読解プリントは、【家スタ！】公式アカウントで先行配信しています